

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
220007	X-13/33-B-1-220007						
授業科目	担当教員						
コンピュータシステム	西山 茂	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	× × × × 専門 専門 専門	× × × × 必修 必修 必修	× × × × 1年 1年 1年

授業目的

ITの主役の1つであるコンピュータシステムの動作原理の基本知識を獲得することは、現代ビジネスを円滑に進めるための必要である。この観点から本授業ではコンピュータ全体とその構成要素について学習する。具体的には、コンピュータ上で使う情報の表現、入出力装置、主記憶、演算、制御などの基本装置を学習する。

本授業は、以下のディプロマポリシーに関連する。

<情報技術の利活用方法を修得し、仕事や生活に活用できること。>

<情報システム学について理解し、情報システム領域の基本的な専門技術を修得していること。>

各回の授業内容

第1回	【授】 コンピュータの役割 【前・後】 教科書、事前配布資料の予・復習（予習に3時間、復習に1時間）	第9回	【授】 ファイル内データ表現 【前・後】 教科書、事前配布資料の予・復習（予習に3時間、復習に1時間）
第2回	【授】 コンピュータ内部の情報処理方法（論理演算） 【前・後】 教科書、事前配布資料の予・復習（予習に3時間、復習に1時間）	第10回	【授】 プログラム（ソフトウェア）実行環境 【前・後】 教科書、事前配布資料の予・復習（予習に3時間、復習に1時間）
第3回	【授】 コンピュータアーキテクチャとCPUアーキテクチャ 【前・後】 教科書、事前配布資料の予・復習（予習に3時間、復習に1時間）	第11回	【授】 プログラム実行形式 【前・後】 教科書、事前配布資料の予・復習（予習に3時間、復習に1時間）
第4回	【授】 コンピュータ内部のデータ表現：2進数 【前・後】 教科書、事前配布資料の予・復習（予習に3時間、復習に1時間）	第12回	【授】 OSとアプリケーションソフトウェア 【前・後】 教科書、事前配布資料の予・復習（予習に3時間、復習に1時間）
第5回	【授】 データ表現：10進数から2進数、16進数への変換 【前・後】 教科書、事前配布資料の予・復習（予習に3時間、復習に1時間）	第13回	【授】 プログラムの動作原理 【前・後】 教科書、事前配布資料の予・復習（予習に3時間、復習に1時間）
第6回	【授】 コンピュータ内部のデータ表現：浮動小数点数、文字表現 【前・後】 教科書、事前配布資料の予・復習（予習に3時間、復習に1時間）	第14回	【授】 コンピュータの利用法（1） 【前・後】 教科書、事前配布資料の予・復習（予習に3時間、復習に1時間）
第7回	【授】 コンピュータメモリ 【前・後】 教科書、事前配布資料の予・復習（予習に3時間、復習に1時間）	第15回	【授】 コンピュータの利用法（2） 【前・後】 教科書、事前配布資料の予・復習（予習に3時間、復習に1時間）
第8回	【授】 外部メモリと外部装置 【前・後】 教科書、事前配布資料の予・復習（予習に3時間、復習に1時間）	第16回	【授】 定期試験 【前・後】 教科書、事前配布資料の復習（復習に4時間以上）

成績評価方法

概ね以下のように評価する

- ・成績は期末試験（80%）と自己学習によるレポート課題（20%）により評価する。
 - ・レポート課題は15回中で4回程度課する。時期は事前には指定しない。
 - ・試験問題は、教科書、授業内配布資料、授業で使用するスライドなどから出題する。
- <フィードバック法>
- ・授業中の小テストなどは、授業時間内で答え合わせをする
 - ・定期テストは、ポータルの授業連絡機能により、試験結果の全体講評を履修生全員に伝える

教科書・参考書

- ・教科書 プログラムはなぜ動くのか
矢沢久雄著、日経ソフトウェア監修、日経BP社
- ・参考文献 隨時紹介する。

受講に当たっての留意事項

- ・情報システム学科の情報指向、経営指向いずれの学生でも身に着けておくべき基礎教養である。
- ・知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う（反転授業）を実施する回がある。
- ・各回は関連性が深い。欠席はできるだけ避けること。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
○	担当教員は、企業の研究開発部門および営業部門、自治体の情報企画部門に実務経験がある。	○

学習到達目標

概ね以下のような目標を設定する。

- ・コンピュータ仕組みを理解する（試験20%、レポート10%）。
- ・コンピュータがなぜ動作するのかを理解する（試験20%、レポート5%）。
- ・ソフトウェアがなぜ動作するのかを理解する（試験20%、レポート5%）。
- ・コンピュータの適切な利用法を理解する（試験20%、レポート10%）。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：E、G

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習